

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 5 月 11 日

評価対象事業	教育 - 23	鎌倉歴史文化交流館管理運営事業	☐ 法定受託事務
所管課	教育文化財部 生涯学習課		評価者 生涯学習課長 飯田 拓也
一般	会計	款 55 項 20 目 30	
総合計画上の位置付け	分野名	歴史環境	施策の方針名 文化財の保護

1 事業の目的

対象	市民等	意図	鎌倉の歴史及び文化に関する展示や教育普及事業の実施により、鎌倉の歴史的遺産や文化的遺産に対する市民等の理解を深めるとともに、交流の場の提供により市民の交流を促進するため。
効果	市民等の歴史学習の環境をつくり、鎌倉の歴史的遺産や文化的遺産を未来へ継承する意識の醸成を図る。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業（事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	鎌倉歴史文化交流館の運営	鎌倉歴史文化交流館の運営	鎌倉歴史文化交流館の運営
予算額（千円）	72,607	70,304	
国県支出金		862	
地方債			
その他	9,830	10,301	
一般財源	62,777	59,141	0
当初人員配置数	5.7	6.0	0.0
人件費（千円）	29,340	31,670	0
事業実績	鎌倉の文化財の保存、常設展及び年4回の企画展の開催、講座及びワークショップ等の教育普及事業		
決算額（千円）	64,706		
国県支出金			
地方債			
その他	2,156		
一般財源	62,550	0	0
人員配置実績数	5.7	0.0	0.0
人件費（千円）	28,578	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
	指標名	企画展の回数	回／年	4	⇒	4		
活1	実績につながる活動	市内における発掘調査速報展を含めた、鎌倉の文化財を普及啓発する企画展を実施した。				11,800		
	指標名	ワークショップ及び講座等の回数	回／年	6	↗	28		
活2	実績につながる活動	隔月第4土曜日に子ども向けワークショップを実施し、鎌倉の歴史・文化を体験によって学ぶ機会を提供するほか、企画展に関連する内容の講座等を行った。				174		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	・企画展だけではなく、ワークショップや講座を通し、鎌倉の歴史及び文化について学ぶ機会を提供できている。 ・博物館としての収蔵庫の設備の不足及び展示室のスペースが狭いことから、展示できる文化財に制限がある等の課題がある。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No (最大3つ)
成1	1日あたりの平均来館者数	人／日	81	↗	69			1 2
成2	来館者の満足度	%	94.7	↗	92.9			1 2

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	・令和3年度以降増加を続けてきた来館学校数が、令和7年度ではじめて減少しており、オーバーツーリズムについて報道されている地域を避けた来訪を検討されていることが推察される。 ・博物館としての収蔵庫の設備の不足及び展示室のスペースが狭いことから、展示できる文化財に制限があるほか、別館に自動ドアがないこと等から、バリアフリー対応に不足がある等の課題がある。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	企画展の開催だけでなく、展示内容に関連した講座等も行い満足度の確保に努めたほか、子ども向けワークショップ等で鎌倉の歴史、文化の学習機会を定期的に提供したことにより、来館者の満足度は微減に留まった。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☒ 市	☐ 国・県	☐ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☒ 十分に出ている	☐ 概ね出ている	☐ 出ていない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
	公平性	関連・類似事業との統合	☐ できる	☒ できない	
方向性	評価実施年度の方向性 ⇒		評価実施翌年度以降の方向性		
	事業内容の方向性	☒ 事業内容は現状通り	☐ ① 事業内容は現状通りとする		
		☐ 事業内容は見直し済 ⇒	☒ ② 事業内容は見直す	→ ☒ 拡大	☐ 縮小 ☐ その他
		☐ 事業を休止又は廃止済	☐ ③ 事業は休止又は廃止する		
		☐ 他事業と統合済	☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する	→	事業へ統合
	予算規模の方向性	☐ 予算規模は現状維持	☐ ④ 予算規模は現状維持とする		
		☐ 予算規模は拡大済 ⇒	☒ ⑤ 予算規模は拡大する		
		☒ 予算規模を縮小済	☐ ⑥ 予算規模は縮小する		

課題への対応		結果	具体的な内容
今後の取組方針（見直し方針）	前年度の新たな課題への対応結果	未解決	博物館としての収蔵庫の設備の不足及び展示室のスペースが狭いことから、展示できる文化財に制限がある。また、別館に自動ドアがないこと等から、バリアフリー対応に不足がある。
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題	新たな課題あり	令和7年度に展示室及び収蔵庫の環境調査を初めて行った結果、多数の昆虫類の捕獲や、文化財で事故を起こすカビである好乾性真菌が基準値以上であることが確認された。館内の空調の改善及び自動ドアによる昆虫の外部からの侵入を断つ必要が認められる。
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性	新規事業の必要性あり	空調等の博物館としての設備に不足があり、現在保存している文化財の保存に影響を及ぼしかねない状況であり、同時に保管できる文化財に制限があることで展示内容に制限がある。このため、設備を改修する必要がある。
	総評	展示やワークショップ等の多様な場で鎌倉の文化財の保存及び歴史・文化を伝える機会の提供に貢献している。一方で、博物館としての設備に不足があり、保存と展示に課題がある状況であるため、館内設備を改修する必要がある。	
			上位施策への寄与度 A

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項	企画展の開催回数								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	4		4						
	鎌倉歴史文化交流館		茅ヶ崎市博物館						

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	茅ヶ崎市博物館は自然・人文・総合と扱う対象物も規模も様々であり比較は難しいが、鎌倉歴史文化交流館の現在の職員数、展示スペース等の規模で安全に充実した展覧会を行うには現在の回数程度が上限と考える。
----------------------	---